

第5回(仮称) 苫小牧市民ホール建設検討委員会及び ワーキンググループ合同会議 議事要旨

日時 平成30年2月27日(火) 10:00~11:30

場所 苫小牧市役所2階 入札室

出席 委員11人

<次第1>開会 市議会報告 【事務局】

- ・整備手法や管理運営手法における民間事業者との連携による様々な手法の検討について、年度内に着手する民間活力の導入可能性調査の中で、PPP/PFI という幅広い民間活力の検討を行っていくことを説明した。
- ・大ホールの席数について、利用者は市民であり、これまでの市民会館の利用実態から、1,200席から1,300席が市民が使いこなせる最適な規模ということで、バックヤードの充実とともにまとまってきた経過を説明した。
- ・建設予定地の記載について、4つの敷地について配置し比較しており、総合体育館南側敷地においては、施設相互の相乗集積効果が期待できる面もあるが、都市公園法や建築基準法による制限があり、他に土地がないことが条件となる。また、建築面積が約4,000平米に制限されることから、高層化になり、駐車場の確保も難しい状況、周辺住宅環境への影響も無視できない。したがって、「市内中心部であること」「市有地であること」「現苫小牧市民会館敷地よりも大きい面積であること」の3条件を満たし、法的規制や周囲への影響等、駐車場の台数確保やオープンスペースの設置を考慮し、現苫小牧東小学校跡地が最も適していると判断したことを説明した。
- ・特別委員会において、基本計画書のカタカナ標記や注釈についてわかりやすくすべきとの意見、音響設備の持込に対する対応や想定、受動喫煙対策、建設場所の決定についての手続きや資料の出し方を丁寧にすべきとの意見、民間活力導入可能性調査の内容や考えに至った経緯について議論があった。

<次第2>議題 (仮称) 苫小牧市民ホール建設基本計画(案)について

民間活力導入可能性調査について

- ・PPP/PFI について議会で話題に挙がったとのことだった。前者は民間活力の導入、後者は民間資金の導入が主眼となる。公共側にPPP/PFI の意向があったとしても、民間のインセンティブがなければ実施には至らない。民間のリスク回避の調整なども含めて、実施すべきかどうかを検討する必要がある。それを実際に調査するのが導入可能性調査となる。【委員長】

パブリックコメントの結果

- ・パブリックコメントの実施に際して、前回の検討委員会からの変更点として、概要版を新たに作成し、計画書本編と資料編を分けて3部校正にした、カタカナと注釈の表記、総合計画(第6次基本計画)を追記、受動喫煙対策を追加(複合対象4施設は館内禁煙)、敷地の表記について訂正し、資料として送付させていただいた。【事務局】

- ・パブリックコメントの実施で11の個人や団体から提出があったとともに、個別に7団体との意見交換も実施した。【事務局】
- ・それぞれの意見は重要である一方で、委員会としての意見も重要である。パブリックコメントの意見を受けて、委員会の意見を再度確認したい。【委員長】
- ・何か意見があったとしてもパブリックコメントに意見を出さないというのが市民の実情だろう。その点を考慮した意見聴取の方法を検討していくべきだろう。【委員】
- ・回答方法は、意見の一つひとつに回答していくイメージだろうか？【委員】
 - ➡項目ごとに整理し、その上で市の考えを述べていくことを想定している。【事務局】
 - ➡役所的な言葉遣いや、意見の整理の仕方にも配慮できると良い。市民が理解できるような平易な言葉づかいと、一つひとつの意見を尊重する丁寧な対応をとってほしい。【委員】

小ホールの席数

- ・吹奏楽部の部員が少なくなっており、市民会館の大ホールを利用せず、文化会館を利用するケースが多くなっている。500席を要望する声が多いのは、文化会館の小ホールを席数いっぱいを使う利用が多くあるからだろう。【委員】
- ・現在の利用を考えると、500席はあった方が良さだろう。【委員】
- ・文化会館のホールは、バレエの発表会であれば階段席にも座るケースも多くあるそうだ。【委員】
- ・500席だと空席が出てくる利用もあるので、演者としては大きく感じる。演奏会をしても空席が多いとテンションやモチベーションが下がる。小ホールであっても区分で利用を分けることができると良いのではないか。【委員】
- ・小ホールの利用区分には賛成。【委員】
- ・キタラの小ホールが利用の仕方においても音響的にも理想的なように感じる。【委員】
- ・大ホールの利用区分も合わせて、施設全体の使い方を柔軟に考えることはできないか。【委員長】
 - ➡日程設定の問題もある。予約が重複してしまう際にどのように解決策があるかを検討する必要があるだろう。【委員】
- ・市民ホールは、市民の憧れや誇りを喚起する場となるべきだろう。席数や多目的な利用のみではないホールの質も追求したいと強く感じた。【委員】
- ・パブリックコメントの回答の中で、「500席数程度」や「現状の文化会館程度」など、現状の利用と同程度の規模を想定していることを記載するのが良いのではないか。【委員長】
- ・席数の問題は、全体の床面積やバックヤードの充実具合とも関連してくる。また、コラボスペースでは音響にこだわらないコンサートなども想定していた。全体の施設構成中での小ホールの役割を明確にすべきだろう。【委員】
- ・基本計画では、小ホールの具体的な仕様を考える必要はない。基本計画では、小ホールの利用が様々あることを考慮し、柔軟に対応できるホールとするということを強調していきたい。【委員長】
- ・一般市民の感覚では、席数を記載されても現在の利用状況と合わせてイメージすることは難しい。現況を記載するのが良いのではないか。【委員】

大ホールの席数

- ・興行的な視点からいえば、1,200席～1,300席では全国的なコンサートは採算がとれない。人口10万人以上の自治体で1,500席以下のホールは少ないように思う。1,500席かどうかは検討すべきだが、1,200席だと全国的な興行は外れてしまうように思う。【委員】
 - ➡これまでの検討委員会を踏まえると、全国的なコンサートを催すというよりは、市民利用を重視するという意見であったように思う。【委員長】
- ・現在の市民会館の利用をみると、札幌から来る利用者が多いように感じる。現況の市民利用が不十分だからこそ、市民がどのようにホールを利用するかという視点を重視していきたい。【委員】
- ・現状より少ない席数になると、現在の大ホールを目一杯使うイベントなどでは、見られない観客が出て来ることになる。そういった現状の席数からあふれてしまう市民に対し、どのように対応するのか懸念する声を聞いた。【委員】
 - ➡満席となる催しを行う団体からも意見をきいたところ、将来的なことも踏まえると、1,200～1,300席という案が妥当との意見をいただいている。ただし、使用料の見直しをすべきという意見をいただいた。【事務局】
- ・マーチングなど舞台を大きく使っている利用者からは、席数が少なくなってステージが狭くなることを心配する意見を聞いた。【委員】
 - ➡席数を減らしても、ステージの規模は現状の規模を小さくすることにはならず、必要な規模を確保できる。【委員長】
- ・舞台装置を可動にするなどフレキシブルな利用を想定したホールのコストや音響はどうか【委員】。
 - ➡可動する際のコストはある程度必要になる。音響については、現在の技術水準は非常に高くなっており、可動であっても遜色ないものができるようになっている。【委員長】
- ・基本計画書に、具体的なホールの利用をイメージできる例があると良いのではないか。固定席でないホールの楽しみ方や、会議室でコンサートをするなど、様々な利用の形態が検討できる。具体的な楽しみ方やイメージを膨らませられると良いように思う。【委員】

多目的室の記載

- ・多目的ホールについては、活動室の一体的な利用や諸室を組み合わせた利用での対応を検討していた。ただしそういった記載が不十分であるようにも思われる。活動室を組み合わせることで現状の市民会館の小ホールの利用も可能であることを強調できると良いだろう。【委員長】
 - ➡諸室名が変わっているだけで、現在の利用ができなくなるわけではないと理解している。さらに、これまでの検討では、コラボスペースでの活発的な活動も想定していた。そういった検討の成果を丁寧に説明できると良いだろう。【委員】

使用料金負担の軽減措置

- ・先日、市民会館の大ホールを利用した際、暖房料が47,000円と非常に高額であることに驚いた。また、実際には利用しない期間であっても料金が取られることもあるそうだ。

【委員】

- ➡ステージの利用区分に応じた料金設定を検討すべきだろう。【委員】
- ➡春・秋・冬がコンサートをする時期となる。暖房料など、設備の使用料金がいくらかかるのかは、市民としては関心がある話題である。【委員】
- ➡備品の使用料金なども課題になってくる。【委員】
- ➡利用料金は運営上重要になるが、管理運営計画で詰めていくことになるだろう。基本計画では、様々な利用形態に柔軟に対応できる料金設定が必要である旨を記載するのが良いだろう。【委員長】

舞台・バックヤードの充実

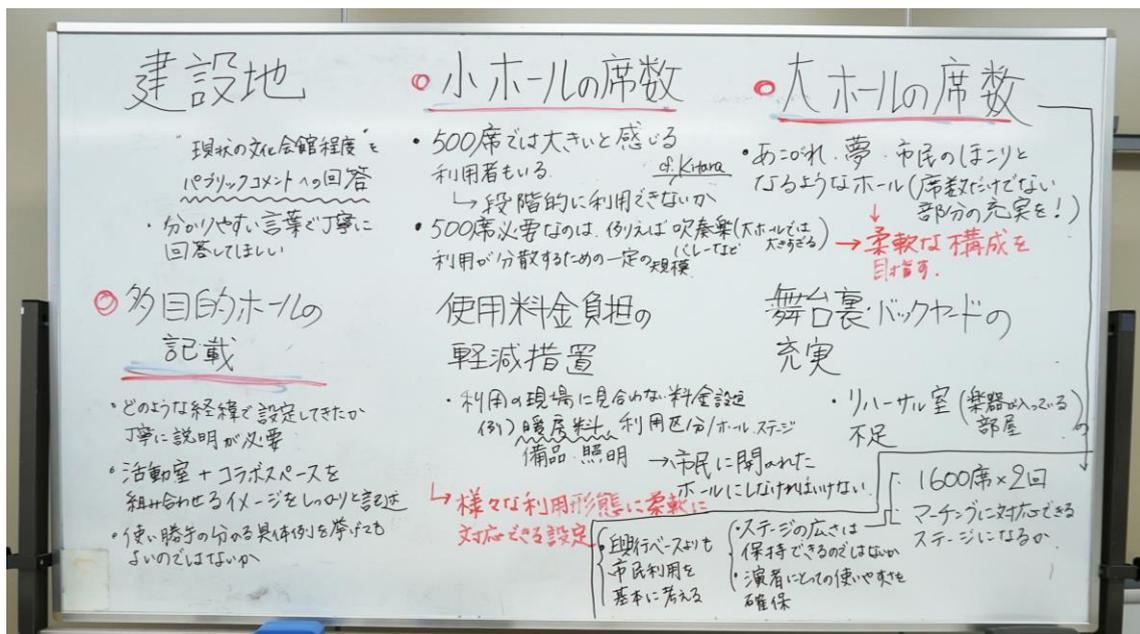
- ・リハーサル室が現状不足している。【委員】

＜次第3＞その他

検討委員会・ワーキンググループを終えるにあたっての感想 【各委員】

- ・多目的なホールができることがイメージでき、これまでにない面白いものができるように感じる。また、今日では、高校のブラスバンドが人気であり、プロかどうかというのは集客とは無関係になってきている。市民に開かれた良い意味でのゆるいスペースを期待している。
- ・市民と協働した計画づくりは、市の取り組みとしても画期的なものだったように感じている。ただし、良い構想や計画ができて、事業が進むにつれて重要視されなくなってしまい、当初のものとのずれが生じてしまうことが往々にしてある。今後、継続的に進捗を確認できる機会があると良いだろう。
- ・若い世代の意見を述べることでできる貴重な機会であった。自分自身の意識の向上や、同年代の友人も関心を持ってくれるなど、有意義な参加ができた。苦小牧の現状は、演奏や活動がしやすい環境とは言い難い。活動しやすく使いやすいホールになるように今後も継続的に何かできればと思う。
- ・基本構想から一貫して重視してきたのは、複合施設という点である。利用者としてはホールの席数も気になるころではあるが、バックヤードの充実など利用者にとって使いやすい施設を期待している。また、市民会館の大ホールは、建設当初、東北以北最大と言われていた。基本設計でのさらなる充実した検討を期待したい。
- ・公平に意見を聞いてもらい、その点は高く評価できる。基本構想・基本計画・基本設計と検討を進めていくにつれ、当初の考えが反映されなくなることがよくある。これまでの市の取り組みも振り返って反省しつつ、今後活かしてほしい。
- ・これまでの文化芸術活動の考えを180度変えてくれた機会であった。特に、可児市で実施されていた社会包摂拠点としての取り組みには感銘を受けた。これまでの検討で重視していたのは、ハード面の検討とあわせたソフト面の検討である。今後、自分自身でも継続的に活動していきたい。

- ・自分自身はこういった場の参加は初めての経験であったが、非常にわかりやすく参加しやすかった。市民が議論してきたということ自体が重要な成果であるように思う。市民が育つホールとして今後も期待していきたい。
- ・この一年、まちなかイベントの実施に関与していく中で、文化芸術活動が持つコラボレーションの可能性を強く感じた。そのためには、市民の気軽な来訪や利用が非常に重要であり、新しい施設でも十分に検討してほしい。今後は、他の課や民間企業の参画も含め、オール苦小牧としての検討ができればと願っている。
- ・市職員としての参加ではあったものの、一市民として自由に意見することができた。今後は、職員としてもまちなかに人が流れるような仕組みづくりができればいいと思う。
- ・若い世代が活発に参加しているのが印象的だった。管理運営の方針については判断が難しいが、今後の検討に期待したい。また、市民の意見や要望を発信できる機会が現状少ないので、今後の取り組みに期待したい。（[文書でのコメント]）
- ・学識経験者として公共施設の計画に関わることが多い中やりがいを強く感じるのは、利用者が実際の利用を通じて建物の価値に気づいてもらえるときである。新しい施設を検討していく中で、経験のない市民にとっては出来上がって見ないと実感できないことも多くある。出来た後に集まっていたり、気づいていただけるようにすることが今後の役割だし、楽しみにしていきたい。管理運営計画や民間活力をどうするのか、構想や計画を設計建設にどう反映するかなど、たくさんやる必要があると思う。これからもいろいろな形で協力をお願いしたい。



議論内容のまとめ

<次第3>閉会 【事務局】

- ・市議会でも注目されている案件である。最後に感想をいただいたが、どれも大変貴重な意見であった。検討委員会としては終了するが、継続的な関与を希望する声も聞くことができた。今後も様々な機会を通じて、協力していただければ幸いである。